

ほとけの

まなざしをもとめて

飛鳥園仏像写真展

—老舗写真館がとらえた大和路の仏たち—

2011年12月1日(木)～2012年2月28日(火)

会期中無休※ただし年末年始(12月28日～1月1日)は休館

[開館時間] 9時30分～17時30分(入館は17時まで)

[主催] 公益財団法人岡田文化財団パラミタミュージアム、
飛鳥園、朝日新聞社

[後援] 三重テレビ放送、シー・ティー・ワイ、ケーブルネット鈴鹿

[入館料] 一般1,000円(4枚セット券3,000円) 大学生800円
高校生500円 中学生以下無料

ギャラリートーク「写真の表情・仏の謎」(4回シリーズ) 赤川一博(当館学芸企画部長)

12月11日(日)「興福寺阿修羅像」 1月15日(日)「中宮寺菩薩半跏像」

1月29日(日)「東大寺月光菩薩像」 2月12日(日)「大安寺楊柳観音像」

いずれも14:00～15:30

同時開催 **パラミタミュージアム所蔵作品名品展**

公益財団法人岡田文化財団パラミタミュージアム

〒510-1245 三重県三重郡菟野町大羽根園松ヶ枝町21-6

Tel.059-391-1088 Fax.059-391-1077

http://www.paramitamuseum.com

E-mail=office@paramitamuseum.com

右「興福寺阿修羅像」左「中宮寺菩薩半跏像」写真：飛鳥園 小川光三

paramitamuseum

飛鳥園仏像写真展—老舗写真館がとらえた大和路の仏たち—

ほとけのまなざしをもとめて



「新薬師寺 十二神将 伐折羅大将像」写真/飛鳥園 小川晴暘



「法隆寺 観音菩薩像(救世観音像)」写真/飛鳥園 小川光三

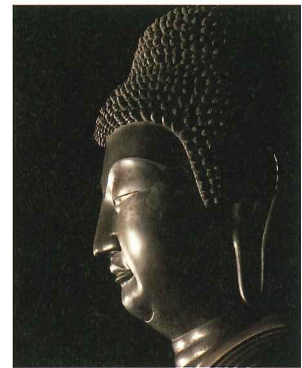
この夢は、息子の光三(一九二八)に、飛鳥園で修行した多くの弟子たちへと引き継がれていきました。切手や写真集、あるいはカレンダーや教科書などで、わたしたちが日ごろ目にする仏像写真の多くは、この飛鳥園が撮影監修したものです。

風景画家を目指していた小川晴暘(一八九四〜一九六〇)が、仏像を描くために写真家になる決心をしたのは、この年のことでした。かれが目指したのは「写真で仏像を描く」、つまり写真で仏像の美を表現することになりました。写真とは記録であるという認識が主流であった当時、これは大変斬新で革命的なことでした。絵を描く筆を捨て、絵の具を捨て、職をも捨てて求めた夢。この夢を実現する城となったのが、いまも続く飛鳥園という写真館です。

「私には仏像も描くことができる、仏像からきつといい心持をくみ取る事が出来るにちがいないと思ひ出した」(小川晴暘手記一九二二年六月二三日)



「法隆寺 観音菩薩像(百済観音像)」写真/飛鳥園 小川晴暘



「薬師寺金堂 薬師如来像」写真/飛鳥園 小川光三

〈同時開催〉パラミタミュージアム所蔵作品名品展

*会期中一部作品の入れ替えがあります。



加藤唐九郎「織部角繁向附」



松「双龍争珠」横山大観



竹「若竹」川合玉堂



梅「水温む」川端龍子

当館のコレクションは平面作品から立体作品まで多岐にわたる作品群により構成されており、その数はおよそ3500点を数えます。

本展覧会では、そのコレクションの中から絵画・陶芸作品の名品を織り交ぜてご紹介します。

次回
展覧会
予告

パラミタミュージアム開館10周年記念特別企画
真宗高田派本山専修寺 開山聖人750回遠翌報恩大法会記念展
高田本山の宝物と文化財 —信仰とその証—

第1期 2012年3月4日(日)~19日(月)
第2期 2012年3月20日(火・祝)~4月2日(月)
第3期 2012年4月3日(火)~16日(月)

- お車をご利用の場合—東名阪四日市ICで降りて国道477号(湯の山街道)を湯の山方面へ約6.5km。無料駐車場あり(普通車100台、大型/バス駐車可)
- 電車をご利用の場合—近鉄「四日市駅」下車、近鉄湯の山線に乗り換え約25分「大羽根園駅」下車、西へ300m。
- 全館バリアフリー、車椅子常備

paramitamuseum

公益財団法人岡田文化財団 パラミタミュージアム

〒510-1245 三重県三重郡菟野町大羽根園松ヶ枝町21-6 Tel.059-391-1088 Fax.059-391-1077
http://www.paramitamuseum.com E-mail=office@paramitamuseum.com



MAPCODE 566359095